本日ここに、埼玉県知事　大野　元裕様、東京都副知事　栗岡　祥一様、山梨県副知事　井上　弘之様をはじめ、多数のご来賓のご臨席を賜り、また隊員家族の皆様、地域の皆様をお迎えして、第１師団創立六十三周年・練馬駐屯地創設七十四周年記念行事を開催できますことは、全隊員の喜びとするところであります。

これも関係各位による平素からの第１師団及び練馬駐屯地に対します温かいご支援、ご協力の賜物であると、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

振り返りますと先の大戦の惨禍からの復興間もない昭和二十五年十二月、越中島に警察予備隊第一管区隊が創設され、その後、習志野への移駐を経て、昭和二十六年、管区隊は、この練馬駐屯地に移駐をしてまいりました。昭和三十七年一月十八日に第一管区隊は改編され、陸上自衛隊第１師団が誕生しました。

それから六十三年、第１師団は地域の皆様にお支えいただきながら、首都圏防衛を任務とした作戦基本部隊として、国

民と国土を守るため、厳しい訓練に励み、災害派遣、国際活動、国家的行事など数々の任務を遂行してまいりました。

今から三十年前、一九九五年三月二十日の通勤時間帯、多数の一般市民を無差別に殺傷した未曽有のテロ事件、地下鉄サリン事件が発生しました。被害に遭われた多くの方々そのご遺族の方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

第1師団の部隊史を紐解きますと、当時、東京都と千葉県からの災害派遣要請を受け、第三十二普通科連隊をはじめ、第一〇一化学防護隊、第一師団司令部付隊化学防護小隊を、霞ヶ関や日比谷、築地、後楽園駅などに速やかに派遣、警視庁・東京消防庁等と密接に連携し、化学兵器サリンを検知し、電車内及び駅構内の除染を行いました。現地には百数十名、バックアップした隊員を入れると数百名、関係機関を含めると大規模かつ大変困難な共同作戦であります。また、この時期は一月十七日に発生した阪神淡路大震災に対処部隊を派遣していた時期です。あらためて部隊の即応態勢、複合事態対処の柔軟性と強靭性、隊員の真摯かつ勇敢な職務遂行に

心から敬意を表します。そして、この隊員たちの使命感を私たちは心に刻まなければなりません。

昨年十一月九日、朝霞訓練場での自衛隊観閲式において、自衛隊最高指揮官である石破内閣総理大臣は、私たちの目の前で、隊員一人一人に厳しく問いかけました。「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に勤め、もって国民の負託にこたえる。」この服務の宣誓に、「自分は今日一日、忠実であったか。自分の働きが、我が国の独立と平和、地域と世界の安定につながっているという満足感を持てているか。強い覚悟と責任感をもって任務を遂行せよ。」

この強い問いかけに、私たちは日々答えていかなければなりません。あの未曽有の対テロ作戦を戦った地下鉄サリン事件での勇敢な隊員たちのように、覚悟と責任感をもって国民の負託にこたえていかなければなりません。

私たちは、ご来場の皆様にお約束します。ここにいる仲間と共にあれば、この第1師団・練馬駐屯地の隊員と共にあれば、如何なる事態においても、例え本日の午後であっても直

ちに出動いたします。関係機関との連携をとって、如何なる厳しい任務をも遂行する強い覚悟をもって行動します。この日本の国を守る、国民の皆様を断固としてお守りすることを全隊員と共にお誓いいたします。

今日は、観閲部隊として今月五日に入隊してくれた八十名の自衛官候補生も整列してくれています。雨でずぶ濡れだけど、寒くないかな？君たちは我々第１師団の大事な仲間です。君たちのうち、誰か一人でも戦場に取り残されたならば、第１師団五千人は全力で君を救出に向かいます。もし国民の誰か一人が危険にさらされたならば、君はたとえたった一人になっても、「危険を顧みず身をもって責務を完遂する」そのことを誓ってほしいと思います。

第一師団はこれからも、如何なる困難な任務をも、必ず遂行します。

隊員諸官

そのためにも、第1師団は、風通しの良い、働きやすい職場でありたいと思います。隊員の安全を大事にできる部隊でありたいと思います。仲間を大事にし、家族を大事にし、信頼しあえる組織でありたいと思います。隊員一人一人が幸せでありたいと思います。幸せは力です。大切な人を守るには自らが幸せでなければなりません。

結びになりますが、本日ご多用中にもかかわらず、また遠方からもご臨席を賜りましたご来賓、並びにご来隊いただきました地域の皆様、ご家族の皆様に重ねてお礼申し上げ、式辞といたします。

令和七年四月十三日

第1師団長

陸　将　　鳥　海　　誠　司